



我が名を畏れ敬うあなたたちには
 義の太陽が昇る。
 その翼にはいやす力がある。
 あなたたちは牛舎の子牛のように
 踊り出て飛び回る。

マラキ書 3 章 20 節



クリスマスおめでとうございます。私は横浜港南台教会のクリスマス礼拝に参加することが出来ました。皆様の賛美の歌声、祈りに心を合わせ、マラキ書から「神はどこにおられるのか」と題したメッセージをいただきました。新約聖書へと導くマラキ書は私たちの信仰の弱さを批判するだけではなく、希望をも与えてくれます。「必ず、わたしはあなたたちのために / 天の窓を開き / 祝福を限りなく注ぐであろう。(3 : 10b)」の箇所はユーモアさえ感じます。

夫は4回目の抗がん剤治療を終え、一時帰宅をしていました。食欲がなく、体力も落ちて、歩くのもおぼつかなく、「寝正月」という言葉はよく聞きますが、「寝クリスマス」となっていました。私はマラキ書 3 章 20 節の御言葉を心に留めました。義の太陽なるイエス・キリストが病床に伏す夫と共にいてくださり、光となり、癒しの御手を持って支えてくださいますように、元気になりますようにと祈りました。

クリスマスイブの日に、息子がやって来て、久しぶりに楽しくおしゃべりをしていたところ、るり子さんから、夫の姪が長女を連れて、横浜港南台教会子どもの教会のクリスマス祝会にやってきたという電話が来ました。バギーを押して、姪が入ってきたそうです。初めてのことでしたし、彼女は東京に住んでいて、医者として忙しく働いているのですから、るりさんはとても驚いたようですが、もちろん大歓迎したことでしょう。夫は電話を聞くととても喜び、ぜひ会いたいということで、祝会が終わる頃に私が迎えに行きました。姪の2歳の長女も初めての教会のクリスマスをととても喜んだとのこと。この日はママの休みの日でしたから、思う存分甘えられて、幸せいっぱい顔でやってきました。

姪はたった一人の兄を亡くしてしまいましたから、従兄弟にあたる私たちの息子夫婦とは兄弟姉妹のような関係になってほしいと以前から願っていたのです。姪は「おじさんが病気になって、どんな具合か見舞いたいけれども、突然だから、教会にまず行ってみよう」と思ったそうです。息子はさっそく、「おじいさんサンタクロース」に代わって、姪の長女のためにプレゼントを準備してくれました。姪の長女は、「おじいさんサンタクロース」の夫にも、可愛い笑顔で「ありがとう」と言ってくれましたので、夫のほうがその何倍も嬉しかったのではないのでしょうか。壁一面に飾られたクリスマス・カードを姪は長女に熱心に読んでやり、長女はカードの絵を眺めて楽しみました。



夫は、「今日はクリスマスの讃美歌を弾いてくれ、歌いたい」と言っていました。みんなで讃美歌を歌い、お祈りをしました。息子夫婦が準備してくれて、夕食もいっしょにすることが出来ました。♪ 嬉しい、楽しい、クリスマス、リンリン、カンカン、クリスマス ♪ になりました。姪たちにとっては初めてのクリスマス。夫にはそれが大きな喜びだったでしょう。

クリスマス当日、夫は5回目の抗がん剤治療を受けるため再入院しました。順調に治療が進んでいることを心から感謝しています。